

2013(平成25)年度法学未修者入学試験(8月試験)問題出題趣旨

【小論文】

1 問題の内容

単身世帯の増加と個人の社会的孤立、これに伴う社会的病理現象について、その要因の分析と対策のあり方の検討を求める問題である。

2 問題の資料の出典

- (1)「孤族の国」(朝日新聞出版) 119ページ以下
- (2)「社会的包摂政策を進めるための基本的考え方(社会的包摂戦略(仮称)策定に向けた基本方針)」[平成23年5月31日・「一人ひとりを包摂する社会」特命チーム]社会保障審議会資料
- (3)「生活保護制度を考える(上)「自立支援の徹底・強化急げ」阿部彩 国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部長, 日本経済新聞2012年7月24日
- (4)「政府は『無縁社会』や『孤族』を救えるのか」池田信夫,「エコノミクス異論正論」・NEWSWEEK 日本版-VOICES コラム&ブログ, 2011.01.27
<http://www.newsweekjapan.jp/column/ikeda/2011/01/post-280.php>

3 出題の趣旨

問われる社会現象はごく卑近なものであり、報道等を通じて目に触れる機会が多く、社会一般の問題関心も高い事項である。したがって、平均的な社会的関心と知識の備えがあれば、その原因分析や対策の検討にはさほどの困難はない。また、検討の視点やヒント、キーワード等は、具体的な結論や理由も含めて資料中に提示しており、知識自体を問うものではない。

とはいえ、個々の現象のみに注目すれば、裾野の広がりが大きく、相互の関連性も一見して明らかなものではない。そこで、本問では、よく資料を参照して「無縁社会」の問題として総括される現象は、一見種々雑多に見えても相互に関連性があり、そのいずれもが今日の社会構造そのものに根深く結びついた解決困難な問題であることを簡潔に整理して的確に文章に表現することが求められる。

そのために、相当分量の資料を引用し、多くのヒントを提示して、その中から適切に回答を組み立てる能力をみることとした。

もとより、結論の当否を試すものではない。問われるのは、文章を的確に整序する能力であり、また、その成果物としての文章の説得力そのものである。

以上